

非対称情報下の小売電力市場の入札モデルに関する構造推定

高木真吾¹
北海道大学 公共政策大学院

細江宣裕²
政策研究大学院大学

2011年4月20日

概要

本稿では、Martinez-Pardina (2006, *Review of Economic Design*) のモデルを用いて、費用と情報構造の両方の点で非対称な入札者(既存事業者と新規参入者)が存在する入札市場を分析する。最初に、官公庁の電力調達入札データを用いて、上記の理論モデルに基づいた形で、市場参加者の供給費用に関する構造推定を行う。次に、推定結果を用いて、電力の小売市場における自由化の帰結に関する分析と市場参加者の厚生水準への影響をみる。具体的には、優遇率の導入および潜在的入札参加者の増加という競争促進措置を導入するシミュレーションを行った。分析の結果、競争促進処置は、直接的に新規参入者の入札参加率を引き上げる方向での影響は小さいことが示される。一方、既存事業者である電力会社への効率化圧力としては機能し、消費者余剰あるいは社会的余剰といった厚生水準の引き上げや、入札時に生じうる、高費用応札者による落札という意味での非効率配分の解消につながる可能性があることが示唆される。

キーワード： 電力産業，入札制度，構造推定

JEL Classification: L94, H57, C54

¹ 連絡先：stakagi@econ.hokudai.ac.jp

² 連絡先：nhosoe@grips.ac.jp